

想定される主な論点（案）

2019年10月
海事局総務課企画室1. 海上交通（定期・不定期（クルーズ））と鉄道、航空分野との連携のあり方

- 1) 生活交通、観光交通としての海上交通と鉄道、航空との連携のあり方について。
- 2) クルーズについて、今年度実施する実証実験で得られる効果をどう活かすか。
また、その後、持続可能なビジネスモデルとして確立するためにはどのような課題、解決方法があるか。
- 3) 先進事例の横展開、連携のあり方、マッチングなど、海上交通と鉄道、航空分野との連携を拡充するために何が必要か。

2. 内外向け航路情報・ルート検索の基盤整備の推進

- 1) 航路情報・ルート検索の基盤整備をどのように具体化していくか。ルート検索のためのデータ提供や更新の促進のために必要となるサポート方法（人的、技術的）について。
- 2) 情報提供以外でデータをいかにして活用するか。いわゆる「作りっぱなし」にならず、データ更新を含め情報を内外で生かす手法にはどういったものがあるのか。（事業者がデータ提供や更新にメリットを感じるためには何が必要か。）
- 3) Maas 実証事業者のフォローと横展開の方策について。

3. 海事観光の地域展開

- 1) 地方運輸局と連携した海事観光推進協議会地域部会等の体制構築のあり方。どこが主体となり、地域のどのような関係業界をまきこむべきか。地域として、具体的にどういった活動をどの程度の頻度で行うのか。
- 2) モデル的に立ち上げた場合、全国への横展開の方策について。

4. 情報発信のあり方

- 1) JNTO等と連携したインバウンド向けの情報発信のあり方とは。活用できるスキームなどはあるか。
- 2) ポータルサイト等で内航、外航の垣根を取り払った情報の一元化が図れないか。
- 3) 「海事観光」を業界のみならず、マスコミに広く取り上げてもらうためにはどうすれば良いか。